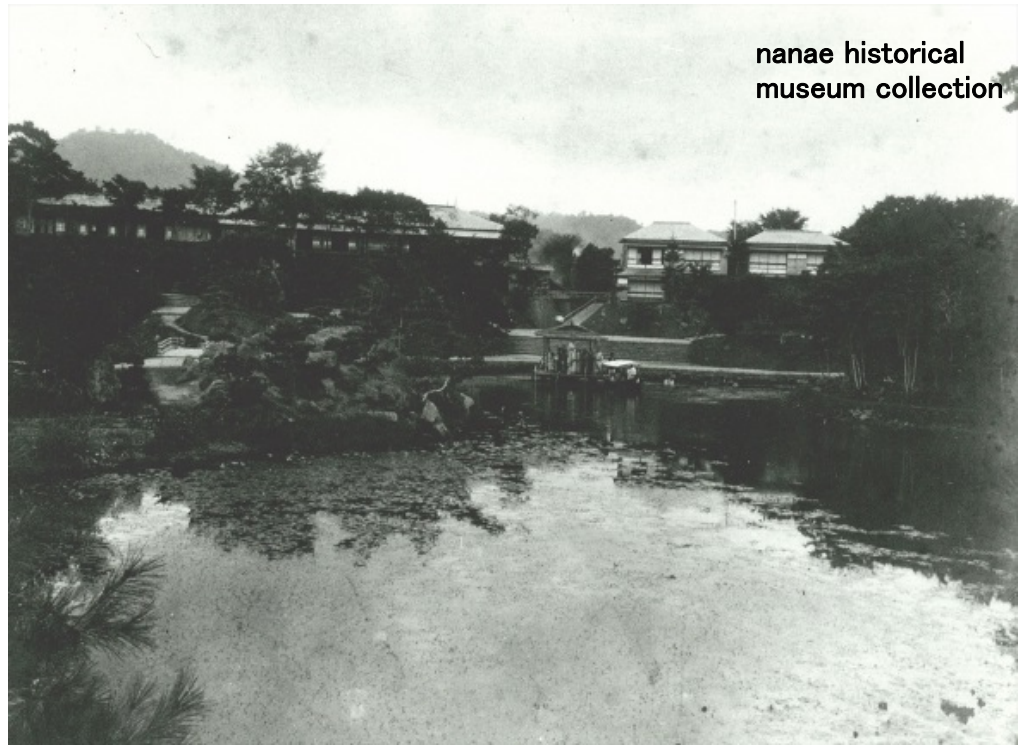


Pichan ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第67号

nanae historical
museum collection



ななえ古写真物語

VOL. 67

宮川勇と紅葉館

大沼公園の発展への想い

大正時代か？

大沼公園

明治36年、現在の大沼公園広場より一段高く石垣が積まれている所に、紅葉館という数寄屋作りの旅館が開業しました。

館主の名前は宮川勇。岩手県出身の彼は、明治初年から全国的にひろがった廃仏毀釈の時勢により、父の神社が取り壊しにあったことから、新天地となる北海道へ渡ってきたようで、困窮する生活の打開の為、開拓工事などに携わりますが、人の使い方が上手だったこともあり、16歳ですでに200人の土工を使うほどまで、頭角を現していったといえます。

折しも、明治期のななえ周辺では、道路掘削や鉄道敷設などの開発が盛んに行われており、宮川勇も函樽鉄道の敷設工事の際、函館～本郷（現在進められている新幹線新駅周辺）間の工事の下請けとなり、大勢の人夫を監督していたようです。

慧眼に優れていた宮川勇は、大沼の可能性を感じ、旅館建設を進めたと考えられ、同時に大沼を公園として発展させるため、道議会議員に掛け合うなどして補助金を取り付け、道立公園昇格への架け橋にもなりました。さらには自費を投じて公園内に銅像や石碑の建立を進めるなど、その活躍は目覚ましいものでした。

宮川勇の人望の厚さゆえか、紅葉館には花の本聴秋や巖谷小波、大町桂月といった著名な俳人・歌人が多く訪れています。彼らはその足跡を書画帳に残しましたが、それらは現在、軸装されて大沼の歴史を語る貴重な資料として当館で保管されています。

今でも大沼公園を散策すると、多くの句碑や歌碑・記念碑などを目にする事ができますが、よく見ると宮川勇や紅葉館に関係するものが多くあることに気付かされ、彼がどれだけ大沼の発展に心血を注いだのかを想像させられます。大沼を散策する際には、石碑に刻まれた見えない歴史探しに興じて頂ければと思います。

さて、長々と綴ってしまいましたが、写真の解説を少し……。湖面で舟遊びに興じる人々の奥に並んでいるのが紅葉館です。左側の連なったのが「第一紅葉館」。右側2棟は「はなれ」と呼ばれる建物。このほか「第二紅葉館」が建てられていました。残念ながら、現在は旅館の影すら見られないのですが、少なくとも宮川勇たちが尽力して築き上げてきた大沼公園は健在で、その想いを未来へ繋ぐために、今を生きる私たちが、何をすべきなのか問われている気がしてなりません。

5日 夜の博物館の前期講座である「ななえの自然誌」が始まりました。第1回目は当館学芸員による「ななえの自然誌」です。江戸末期から明治にかけて、道南を舞台にフィールドワークを続けた外国人ナチュラリストたちをスライドなどで紹介。所蔵している昆虫標本を見てもらいながら、当時、新種記載された種がどれだけののかなど、熱く語っていました。参加された皆様、夜遅くまでご苦労様でした。



29日 ジュニア探検クラブで、木古内町にある大平遺跡の見学と体験発掘を行いました。

まずは、実際に遺跡から出土した遺物を調査を担当している北海道埋蔵文化財センターの土肥さんに解説して頂きました。その後、段丘にある遺跡を見学し、体験発掘スタートです。掘り始めてすぐに土器や石器が見つかり、子供たちも大喜びだったようです。

午後からは、北斗市にある男爵資料館を見学。七飯町にゆかりのある男爵いもの歴史にふれました。



みつけたあ！

テーマ展の準備を進めています！

現在、当館ではテーマ展「蝶と蛾の世界」のオープンに向けて、準備を進めています。今回の展示は町内に在住する蝶や蛾の専門家の指導を頂きながら、多くの標本を用いて、分類的な違いや生き残るための戦術などを紹介できればと思っています。当館学芸員も、この展示に向けて、嬉々とした表情で、採集や写真撮影に走りまわっているところです。ちょうど、夏休み期間中でもありますので、是非ご来館頂ければ幸いです。



編集後記 ~tawagoto~

この間、久しぶりに横津岳の様子を見てきた。ワタスケやモウセンゴケ、ツルクケモモの姿をファインダーにおさめ、調子に乗って烏帽子岳の方まで散策してきたのだが、あたりにはモズやカワラヒワ、ウグイスのさえずりが響き渡り、癒しの時間を過ごさせて頂いたのだが、いつの間にか腕を虫にさされ、その後5日ほどかぶれてしまった・・・。
時に自然は牙をむくことを身をもって体感した一日になってしまった。(やまだひさし)

8月の予定

1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水 ジュニア探検クラブ・夜の博物館
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火
21	水
22	木
23	金
24	土
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金
31	土

※8月の休館日はありません。

すずむし・・・

当館では、鈴虫を卵から飼育している最中です。小さかった彼らも段々と大きくなり、秋にはロビーで美声を披露できそうです！



Pichart ~ピチャリ~
第67号

平成25年7月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp